FUJIFILM
Value from Innovation

開成地区
2023年度
サステナビリティレポート

ごあいさつ

私たち富士フイルム開成地区の環境保全に向けた取り組みと成果をご報告する「サステナビリティレポート2023」を、本年もここにお届けいたします。ESG(環境・社会・企業統治)やSDGs(持続可能な開発目標)といった言葉が各種メディアを賑わし、企業の環境に対する姿勢への社会的な関心はますます高まっておりますが、本レポートが私たちの環境に対する姿勢を知っていただく一助となれば幸いです。

富士フイルム開成地区は神奈川県西部の開成町に立地し、美しい緑と大小さまざまな河川などの豊かな自然に囲まれた環境のもと、最先端の研究開発を行っています。

1981年に富士フイルムグループの研究開発拠点としてまず宮台技術開発センターが開所し、2006年には先進研究所が設立され、現在は医療機器、ライフサイエンス機器、インクジェット関連機器・材料、機能性材料、医薬・ヘルスケア製品など、多岐にわたる分野の研究および製品開発に取り組んでいます。

私たちの環境に対する取り組みの根幹をなすのは、富士フイルムグループとして定めた「富士フイルムグループ　グリーン・ポリシー」です。その中では、「製品・サービス、事業プロセスの全てにおいて、気候変動への対応、資源循環の促進、化学物質の安全確保、地域の環境保全、生物多様性の保全に取り組むことで、”持続可能な発展”に貢献」することをグループ全体の基本として宣言しています。また具体的な行動指針として「独自の優れた技術による環境課題の解決への貢献や各国・地域のルールおよび自主規制等の遵守、地域社会を始めとするさまざまなステークホルダーとの良好なコミュニケーションの確保、グループ各社の従業員教育の徹底」などを掲げています。

富士フイルム開成地区では、日々の企業活動にあたっては周囲の環境を保全し近隣の方々にご迷惑をおかけしないよう努力することはもちろん、研究開発テーマについても「環境価値の高い製品、サービスの開発と普及」を目指しています。

また、開成地区内で使用するエネルギーについて、太陽光発電等の再生可能エネルギーを積極的に導入し、CO_2排出量削減による温暖化防止等への貢献を図ってまいります。

私たちの研究開発を起点として画期的な製品やサービスが誕生し、それが世界中で利用されることで環境課題の解決と持続可能な発展に貢献できることを願い、これからも精力的な研究開発に取り組んでまいります。

最後になりますが、私たちは「富士フイルムグループ　グリーン・ポリシー」及び「富士フイルム開成地区環境方針」を引き続き遵守するとともに、環境マネジメントシステムISO14001（1998年認証取得）に準拠した環境活動を継続し、環境負荷の低減と地域社会との共生に努めてまいります。この「サステナビリティレポート2023」により私たちの環境に対する積極的な取り組みをご理解いただくとともに、皆様からのご意見、ご指導を賜れば幸いと存じます。

2023 年 12 月

富士フイルム株式会社
執行役員
バイオサイエンス＆エンジニアリング研究所長

山本　武

概　　要

組織の概要／環境負荷

創立　　1981年10月16日
組織　　(2023年3月31日現在)

開成地区

宮台開発センター

- メディカルシステム事業部
- メディカルシステム開発センター
- 画像技術センター

宮台開発センター
- 敷地面積　32,021㎡
- 建物面積　28,365㎡

- アドバンスト　マーキング研究所
- バイオサイエンス&エンジニアリング研究所
- 知的財産本部
- 総務部

先進研究所

- 先端コア技術研究所
- インフォマティクス研究所
- 有機合成化学研究所
- 解析技術センター
- 精密プロセス技術センター

先進研究所
- 敷地面積　29,500㎡
- 建物面積　59,000㎡

開成地区
- 従業員数(社員)　1,079名（2023.3.31現在）
- 主要開発品目
  - 医療機器及びデバイス
  - ライフサイエンス機器
  - インクジェット機器
  - 医薬・ヘルスケア・機能性材料の研究
  - 画像技術、解析技術の研究

環境負荷概要（2022年度）

大気排出

●二酸化炭素ガス	10,650トン/年
●VOC	0トン/年
●SOx	0トン/年
●NOx	1.1トン/年
●ばいじん	0トン/年

エネルギー・水

●電気	21,362MWh/年
(太陽光発電	33MWh/年)
●都市ガス	1,152千Nm³/年
●井水、町水	732千m³/年

→ **研究・開発** →

産業廃棄物

●リサイクル	342トン/年
●自家処理	0トン/年

有価物*1　221トン/年

*1 廃棄物の一部を有償で販売できるように分別と処理を見直したもの

概　　要

開成地区環境方針

自然環境との調和及び地域社会との共生を大切にし、健全な環境の維持･向上を図るための環境管理活動を最重要課題の一つとして掲げ、下記の項目を定める。

1．環境価値の高い製品、サービスの開発と普及
2．環境マネジメントシステムの継続的改善
3．環境法規・同意した協定の順守
4．地域社会への汚染の予防と防止
5．環境改善に対する認識と技能の向上
6．地域社会との良好なコミュニケーションの確保

環境活動と成果の概要

項　　目	目　　標	2022年度実績
1.環境価値の高い製品･サービスの開発	環境に有益な製品、サービスの研究開発と普及	●内視鏡やX線画像診断装置等の開発と販売。 ●医薬品およびヘルスケア商品の開発を推進。 ●環境価値の高い機能性材料等の開発を推進。
2.省エネ CO_2ガス排出削減 資源の有効活用	1）CO_2排出量原単位（電気、熱エネルギー）の抑制	●対前年度比6.2%の削減を達成。 ●職場/エリアごとの電力の見える化・発信を継続 ●先進研究所：休日・夜間の給排気停止拡大。 ●宮台開発センター：実験室の空調最適化。
	2）廃棄物発生量の抑制	●2021年度比5.4%の削減を達成(研究動向変化による自然減含む)。 ●プラスチック製器具の下処理・分別改善による有価物化徹底が寄与。
3.環境汚染リスクの低減	1）設備老朽化対応の実施	●老朽化による設備停止0件を達成。 ●計画に基づく排水設備の点検・補修を実施。 ●構内排水異常発生を想定した対応訓練を実施。
	2）化学物質管理の維持・強化	●化学物質リスクアセスメントの実施。 ●化学物質管理状況の内部監査を実施。 ●化学物質セキュリティ管理の強化。 ●法規制監視ソフトウェアによる監視の徹底と適切な法対応。
	3）バイオマテリアル実験の管理体制の維持・強化	●バイオマテリアル委員会を開催。 ●開成地区内の各種ルールの整備、展開。 ●バイオセーフティ教育を実施（1回/月）。
4.環境ISO活動の継続的改善	1）ISO14001-2015版の効率的運用	●ISO14001-2015版に対応した環境マネジメントマニュアルを適切に運用し、外部機関による監査で認証を継続。
	2）ISO14001内部監査員の育成	●ISO14001-2015版に準拠した内部監査員資格取得講習会を開催。 ●新規内部監査員向けOJTを実施。
	3）法令遵守事項に関する仕組みの改善	●法改正に伴う法令遵守確認項目の見直しと実施の徹底。 ●化学物質関連法改正の周知と法対応の徹底。
	4）社内外コミュニケーションの実施	●コロナウイルス感染症の影響を考慮し、例年実施している下記活動はいずれも中止。 富士フイルムグループ4社合同の地域住民向け環境報告会(会合は中止し報告書のみ配布)、地元小学生を対象とした科学教室、近隣地域清掃活動（1回/月）。 ●2022年度サステナビリティレポートを発行。

環境マネジメントシステム（ISO14001）の仕組み

計画 Plan → 実行 Do → 確認 Check → 改善 Act

●環境方針の設定
●環境目標の設定
●実施プログラムの設定

●実施プログラムに沿った実施と運用

●監視、測定、記録
●内部監査、外部審査
●是正処置

●経営層による見直し

継続的改善

環境マネジメント組織体制

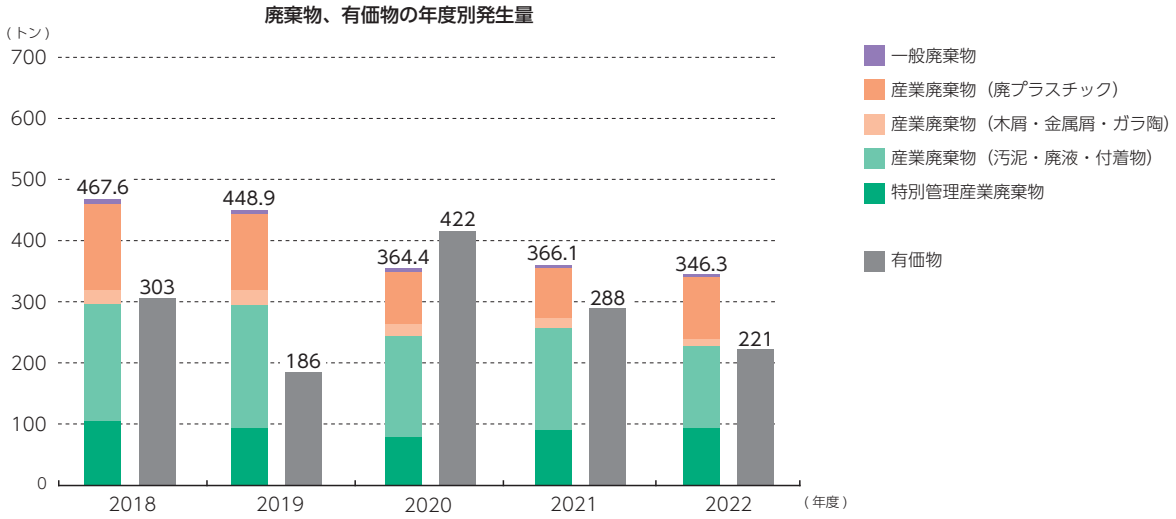
- 全社FRC委員会
  - 「開成地区」RC*1委員会
    - 委員長：アドバンスト　マーキング研究所長
    - ＲＣ委員メンバー：各部門長
  - 「開成地区」EA*2委員会
    - 委員長：環境管理責任者
    - ＥＡ委員メンバー：各部門より１名選出
    - 内部環境監査員
  - 各部環境推進委員会（各部門システムの運用・実施）
    - 委員長：ＥＡ委員
    - 委員メンバー：各グループより選出

*1 RC:Responsible Care
*2 EA:Environmental Association

廃棄物発生量

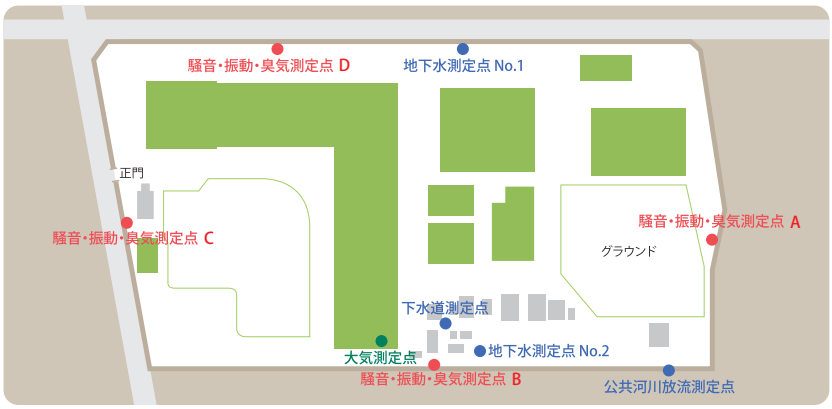
新型コロナウイルス感染症よる研究活動への影響は徐々に解消しつつあり、また新規研究テーマの拡大による排出増加があるものの、継続的な排出抑制の取り組みにより、2022年度の廃棄物量は2021年度から5.4%の削減を達成しました(366.1t→346.3t)

今後も研究推進と資源効率を両立するべく、取り組みを継続していきます。



環境測定（P5、P6）測定点

宮台開発センター



先進研究所

環境関連法規の遵守状況

水質

地下水系

項目	県条例値	単位	宮台開発センター				先進研究所			
			2021 年 10 月		2022 年 10 月		2021 年 10 月		2022 年 10 月	
			No1	No2	No1	No2	No1	No2	No1	No2
カドミウム	0.003	mg/l	不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)	
シアン化合物	検出されないこと	mg/l	不検出		不検出		不検出		不検出	
有機りん化合物	検出されないこと	mg/l	不検出 (<0.1)		不検出 (<0.1)		不検出 (<0.1)		不検出 (<0.1)	
鉛	0.01	mg/l	不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)	
六価クロム	0.05	mg/l	不検出 (<0.005)		不検出 (<0.005)		不検出 (<0.005)		不検出 (<0.005)	
ひ素	0.01	mg/l	不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)	
総水銀	0.0005	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
ＰＣＢ	検出されないこと	mg/l	不検出		不検出		–		–	
トリクロロエチレン	0.01	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		–		–	
テトラクロロエチレン	0.01	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		–		–	
ジクロロメタン	0.02	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	0.0006	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
四塩化炭素	0.002	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
1.2- ジクロロエタン	0.004	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
1.1- ジクロロエチレン	0.1	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		–		–	
1.2- ジクロロエチレン	0.04	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		–		–	
1.1.1- トリクロロエタン	1	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		–		–	
1.1.2- トリクロロエタン	0.006	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
1.3- ジクロロプロペン	0.002	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		–		–	
ベンゼン	0.01	mg/l	–		–		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
セレン	0.01	mg/l	不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)	
ほう素	1	mg/l	不検出 (<0.05)		不検出 (<0.05)		不検出 (<0.05)		不検出 (<0.05)	
ふっ素化合物	0.8	mg/l	不検出 (<0.08)	0.11	不検出 (<0.08)	0.12	不検出 (<0.08)	不検出 (<0.08)	0.11	0.11
硝酸性窒素＋亜硝酸性窒素	10	mg/l	不検出 (<0.1)	0.49	不検出 (<0.1)	1.20	1.00	1.20	1.10	1.40

県条例値：神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行規則による

公共河川放流系

項目	法基準値	県条例値	調査頻度 回数	単位	宮台開発センター		先進研究所	
					2021 年度	2022 年度	2021 年度	2022 年度
					年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間平均値
水素イオン濃度（pH）	5.8 以上 8.6 以下	5.8 以上 8.6 以下	2 回 / 年		8.0	8.0	7.9	8.0
生物化学的酸素要求量（BOD）	160	15	12 回 / 年	mg/l	0.1	0.1	0.5	0.2
化学的酸素要求量（COD）	–	15	12 回 / 年	mg/l	0.3	0.3	0.9	1.3
浮遊物質量（SS）	200	35	12 回 / 年	mg/l	1 未満	1 未満	1.2	0.7
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）	5	3	12 回 / 年	mg/l	1 未満	1 未満	1 未満	1 未満
フェノール類含有量	5	0.005	2 回 / 年	mg/l	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
銅含有量	3	1	2 回 / 年	mg/l	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満
亜鉛含有量	5	1	2 回 / 年	mg/l	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満
溶解性マンガン含有量	10	0.3	2 回 / 年	mg/l	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満
六価クロム	0.5	0.05	2 回 / 年	mg/l	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満
窒素含有量	–	–	2 回 / 年	mg/l	1.6	1.3	2.1	1.9
燐含有量	–	–	2 回 / 年	mg/l	0.07	0.06	0.16	0.19

下水道系

	法基準値	開成町条例値	調査頻度 回数	単位	宮台開発センター		先進研究所	
					2021 年度	2022 年度	2021 年度	2022 年度
					年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間平均値
水素イオン濃度（pH）	–	5 を超え 9 未満	2 回 / 年	mg/l	7.5	7.7	7.7	7.6
生物化学的酸素要求量（BOD）	–	600	2 回 / 年	mg/l	26	41	28	25
浮遊物質量（SS）	–	600	2 回 / 年	mg/l	12	22	32	23
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）	–	5	2 回 / 年	mg/l	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満
フェノール類含有量	0.5	0.5	2 回 / 年	mg/l	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
銅含有量	1	1	2 回 / 年	mg/l	0.2 未満	0.2 未満	0.2 未満	0.2 未満
亜鉛含有量	1	1	2 回 / 年	mg/l	0.2 未満	0.2 未満	0.2 未満	0.2 未満
溶解性マンガン含有量	1	1	2 回 / 年	mg/l	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
六価クロム	0.5	0.5	2 回 / 年	mg/l	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満
窒素含有量	–	–	2 回 / 年	mg/l	14.5	40.5	31.0	13.0
燐含有量	–	–	2 回 / 年	mg/l	1.43	3.07	2.24	1.03

大気

主な項目	法令基準値	宮台開発センター			先進研究所		
		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
NOx(窒素酸化物) ppm	60	15	16	(施設廃止)	32	30	34
SOx(硫黄酸化物) Nm³ / h	–	–	–	(施設廃止)	–	–	–
ばいじん g /Nm³	0.1	不検出＊1	不検出＊1	(施設廃止)	不検出＊1	不検出＊1	不検出＊1

法令基準値：大気汚染防止法施行規則による

＊1 ＜ 0.001g/Nm³

VOC

(単位：μ g /m³)

測定地点	メチルエチルケトン			ノルマルヘキサン			アセトニトリル		
	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月
宮台開発センター内 A地点	5.7	4.8	7.2	0.5	0.8	0.3	<0.1	0.1	<0.1
宮台開発センター内 B地点	4.1	4.3	6.4	0.5	0.7	0.2	<0.1	0.2	<0.1
宮台開発センター内 C地点	1.9	4.6	2.8	0.5	0.9	0.3	<0.1	0.3	<0.1
宮台開発センター内 D地点	7.0	7.2	6.8	0.6	0.8	0.2	<0.1	0.3	<0.1
先進研究所内 E地点	2.4	2.7	2.3	0.7	0.9	0.3	<0.1	0.2	<0.1
先進研究所内 F地点	2.2	3.7	2.2	0.7	0.9	0.4	<0.1	0.4	<0.1
先進研究所内 G地点	2.6	4.4	3.6	0.5	0.7	0.2	<0.1	0.1	<0.1
先進研究所内 H地点	2.8	3.4	3.1	0.9	1.1	0.3	<0.1	0.1	<0.1
有害大気汚染物質モニタリング調査結果 (環境省HP)	0.5 ～ 14 (1995年)			6.8 ～ 17 (1995年)			–		

VOC 測定地点

騒音・振動・臭気

騒音レベル

宮台開発センター					先進研究所				
測定年月	時間帯	測定地点	県条例規制基準値 (dB)	騒音レベル (dB)	測定年月	時間帯	測定地点	県条例規制基準値 (dB)	騒音レベル (dB)
2022 年 6 月	日中	A 地点	65	56	2022 年 6 月	日中	E 地点	62.5	60
		B 地点	75	58			F 地点	62.5	45
		C 地点	75	50			G 地点	65	47
		D 地点	65	51			H 地点	65	49
	夜間	A 地点	55	54		夜間	E 地点	52.5	51
		B 地点	65	58			F 地点	52.5	43
		C 地点	65	49			G 地点	55	48
		D 地点	55	51			H 地点	55	48

振動レベル

宮台開発センター					先進研究所				
測定年月	時間帯	測定地点	県条例規制基準値 (dB)	音圧レベル (dB)	測定年月	時間帯	測定地点	県条例規制基準値 (dB)	音圧レベル (dB)
2022 年 6 月	日中	A 地点	65	30 未満	2022 年 6 月	日中	E 地点	65	30 未満
		B 地点	70	30 未満			F 地点	65	30 未満
		C 地点	70	30 未満			G 地点	65	30 未満
		D 地点	65	30 未満			H 地点	65	30 未満
	夜間	A 地点	60	30 未満		夜間	E 地点	60	30 未満
		B 地点	65	30 未満			F 地点	60	30 未満
		C 地点	65	30 未満			G 地点	60	30 未満
		D 地点	60	30 未満			H 地点	60	30 未満

臭気指数（3 点比較式臭袋法）

宮台開発センター						先進研究所					
測定年月	時間帯	測定地点	県条例規制基準値 (臭気指数)	臭気指数	臭気濃度	測定年月	採取日	測定地点	県条例規制基準値 (臭気指数)	臭気指数	臭気濃度
2022 年 6 月	日中	A 地点	15	10 未満	10 未満	2022 年 6 月	日中	E 地点	15	10 未満	10 未満
		B 地点	15	10 未満	10 未満			F 地点	15	10 未満	10 未満
		C 地点	15	10 未満	10 未満			G 地点	15	10 未満	10 未満
		D 地点	15	10 未満	10 未満			H 地点	15	10 未満	10 未満

化学物質の管理

主な取り組み

●研究者が多様な化学物質情報や法令遵守事項を容易に検索できる社内掲示板サイトを設置し、ハザード/リスク管理の強化に繋げています。

●「何がしたいか」から「どのような法対応が必要か」を逆引きできる社内掲示板サイトを設置し、研究者が調査にかかる労力と時間の短縮、的確で一貫した対応とその継承に繋げています。

●知らないを無くして法の逸脱防止を図るため、化学物質法対応についてAIチャットボット（問い合わせ自動対応システム）を導入し、「気軽に相談」「迅速回答」「24時間365日対応」を実現しました。

●法監視/法規制チェックソフトウェアや薬品管理システム等のITツールを導入し、適切で迅速な法対応及び化学物質管理の効率化に繋げています。

●定期的な現場監査で化学物質の管理の適切性や継続状況を確認すると共にフォローアップや改善提案を行い、改善の継続に繋げています。

PRTR

人の健康や生態系に有害なおそれがある性状を有する化学物質の環境への排出量を把握することで、化学物質管理の改善及び化学物質による環境上のリスク低減に取り組んでおります。

年間使用量1トン以上の第一種指定化学物質：アセトニトリル、ｎ－ヘキサン、クロロホルム

環境教育

・配属時の一般労働安全教育および環境教育（入社・異動者）　約200名受講/年
・環境マネジメントシステム（ISO14001）内部監査員養成教育　約10名受講/年

環境年表

1981年	・宮台技術開発センター設立
1998年	・環境マネジメントシステム（ISO14001）認証取得
2005年	・環境マネジメントシステム（ISO14001）の2004年版対応完了
2007年	・環境マネジメントシステム（ISO14001）登録名を「開成事業場」と改め、適用範囲に先進研究所を含め継続認証取得
2016年	・環境マネジメントシステム（ISO14001）の2015年版対応完了

省エネルギー活動とCO_2排出量削減、資源の有効活用

【目標】原単位対前年度比 2.5%削減（実質床面積換算の環境効率）

2022年度実績

夜間・休日といった実験非稼働時のエネルギー削減や非化石証書の購入実施に取り組み、CO_2排出量は2021年度に対し1,752t減少し、実装床面積（実験室・居室など）で規格化した環境効率を採用したCO_2排出量原単位は16.8%減少（対2000年度CO_2原単位としては28%に減少）しました。その結果、CO_2排出量削減目標であり、省エネ法でも求められる対前年度比原単位１%以上削減を達成しました。

●宮台開発センターでは、以下の省エネ施策によりCO_2排出量が195t減少し、環境効率は11.5%改善しました。
①研究テーマの変更に伴いL棟の空調機器の運転時間の最適化

●先進研究所では、以下の省エネ施策によりCO_2排出量が362t減少し、環境効率は4.3%改善しました。
①24時間稼働中の全体空調について、夜間・休日停止エリア拡大（24時間稼働エリア：49%→40%に改善）
②蒸気配管の老朽化による蒸気漏れに関する調査、補修の実施

●非化石証書の購入により、以下のとおりCO_2排出量の削減をしました。
①宮台開発センターの年間使用電力量の約12.5%分にあたるCO_2排出量が394t減少し、環境効率は11.0%改善しました。
②先進研究所の年間使用電力量の約12.5%分にあたるCO_2排出量が800t減少し、環境効率は10.3%改善しました。

2023年度計画

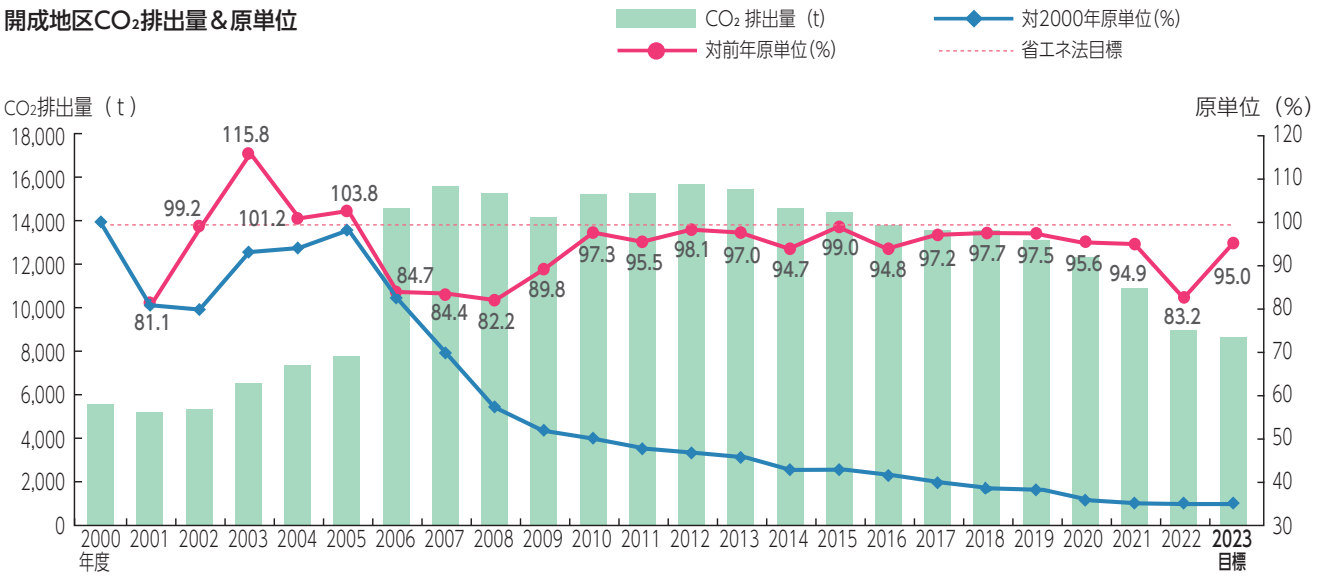
昨年度に引き続き、実験非稼働時のエネルギー削減を推進します。

●宮台開発センターは太陽光発電設備の導入等を行い、対前年比5.0%のCO_2排出量原単位削減を目指します。

●先進研究所は、24時間稼働中の全体空調について、夜間・休日停止エリアを更に拡大、非稼働時エネルギーを削減し、対前年比5.0%のCO_2排出量原単位削減を目指します。

上記施策により、CO_2原単位（実装面積換算）は省エネ法で求められている過去5年間平均で毎年1%以上削減を達成する見込みです。併せて、カーボンニュートラルに向けた施策として、非化石証明書の購入により、CO_2排出量の削減に努めます。

開成地区CO_2排出量＆原単位



環境保全

排水訓練（6 月）

一般従業員向けに、排水トラブルの未然防止を目的とした教育を行っています。2022年度は6月に屋内での漏水に対する訓練を行いました。

オイル漏洩防止（随時）

車両からのオイル漏洩防止のために、出入り業者への啓蒙活動や早期発見のための巡視強化などを積極的に行っています。

なお、例年実施している以下の地域コミュニケーション活動については、
昨年に引き続きコロナウイルス感染症の影響を考慮して中止といたしました。

・事業場周辺の構外美化清掃

・近隣自治会との意見交換会（6 月、但し報告書配布のみ実施）

・地元小学生への科学教室（8 月）

労働安全

安全への取り組み

2022年度は「全員が　プロの意識で　取り組んで守る安全　高める効率！」をスローガンに掲げ、労働災害の防止と安全な労働環境の維持、向上に努めました。さらに毎月一回「ゼロ災活動日」を定め、各職場単位でテーマに沿った安全活動を継続的に行っています。

総合防災訓練（5 月、11 月）

5月は昨年に引き続いてコロナウイルス感染症の影響を考慮し中止としました。11月に地震を想定した避難訓練を富士フイルム開成地区3社（富士フイルム・富士フイルムビジネスイノベーション・富士フイルムヘルスケアマニュファクチャリング）の本部隊合同で実施しました。

禁煙活動

従業員の健康づくりのために禁煙活動を推進しています。事業場内の健康推進室（医務室）に禁煙外来を設置して従業員の禁煙を積極的に支援しており、喫煙率も年々下がってきています。
また2020年10月より事業場内にある喫煙所をすべて閉鎖いたしました。

交通安全キャンペーン（4 月、10 月）

富士フイルム開成地区3社（富士フイルム・富士フイルムビジネスイノベーション・富士フイルムヘルスケアマニュファクチャリング）で、春/秋の「全国交通安全週間」の時期にあわせて毎年「交通安全キャンペーン」を実施しています。神奈川県警のご協力もいただきながら、3社の従業員が事業場の入口や周辺の道路に立ち、交通安全を呼びかけました。
労働災害防止だけでなく、通勤途上災害の防止に向けた啓蒙活動にも積極的に取り組んでいます。

［ 表紙について ］

「調和・共生の維持向上」をコンセプトに周辺環境や
地域社会とのコミュニケーションをデザインしました。

FUJIFILM
富士フイルム株式会社

開成地区

宮台開発センター
〒 258-8538　神奈川県足柄上郡開成町宮台 798

先進研究所
〒 258-8577　神奈川県足柄上郡開成町牛島 577

本レポートに関するご意見・お問い合わせは、下記までお願いいたします。
総務部（開成）　環境・安全グループ
ＴＥＬ：(0465) 86-1116
ＦＡＸ：(0465) 86-1003

「富士フイルムホールディングス サステナビリティレポート 2023」も
併せてご覧いただければ幸いです。
https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability

発行　2023 年 12 月 20 日